

令和2年 10月15日

北海道サッカー協会 各位

2020北海道レフェリーアカデミー第7回 事業報告

報告者: 牧田 隆史(空知)

〈日 時〉令和2年10月3日(土)、4日(日)

〈場 所〉札幌厚別公園競技場サブグラウンド、東雁来公園サッカー場

〈参加者〉インストラクター: 古曾部 統太郎 氏、今川 一輔 氏、岡田 渉 氏

審判員 : 小松 祐也、田口 平蔵、牧田 隆史、高橋 海星

オブザーバー : 森 英樹 氏、伊藤 真也 氏、渡部 学 氏 (レフェリーインストラクタートレセン)

10月3日

8:00 集合: 札幌厚別公園競技場サブグラウンド

9:30 試合実践①

北海道学生サッカーリーグ1部 第4節 東海大学札幌校舎 vs 北海学園大学

主審: 高橋 副審1: 牧田 担当INS: 今川INS、岡田INS

自己分析

試合を通してほぼ一貫した判定基準で行うことができ、選手やチームスタッフにも受け入れてもらえたと思う。前回アカデミーで課題に上がっていたゴールキック時のポジションを意識した。内側ではなく外側取ることによって、事象がクリアに見る事ができ監視を容易に行うことができた。動き出すタイミングが適切ではなく、巻き込まれることが多かったため、動き出すタイミングを見極めて走り出したいと思った。

INS分析

試合中イエローカード2枚、レッドカード1枚を出したシーンは問題ない。前半10分の白の選手が競り合いの前にFW体を当てたシーンはファウルをとってもよかったのではないかと。前半38分スローインのポジションが大きくずれていた。選手からも声が出ていたように、公平・公正さの観点からいくとボールが出た場所からしっかり行わせるべきではないかと。バイタルエリアに入ってから動きがなく、巻き込まれることが多かった。バイタルエリアに入ることが目的ではなく、そこから常に良い角度と距離を取るために動き続ける必要がある。

11:50 試合実践②

北海道学生サッカーリーグ1部 第4節 札幌大学 vs 星槎道都大学

主審: 小松 副審1: 田口 担当INS: 渡部INS(インストラクタートレセン)

自己分析

試合中にファウルアピールや判定に対する質問などがされなかった為、判定基準は選手に受け入れられていたと思う。DOGSOのシーンでは、笛を吹いてから選手にカードを示すまでに事象を整理しました。接触後キーパーがボールをクリアした為、コントロールができていないのではないかと悩んだが、接触した瞬間にはキーパーとの距離が十分にありコントロールできる可能性が高いと判断した。

別な事象で、ラフプレーの結果、負傷者が発生し、懲戒罰が必要となった時にス



ムーズに行えなかった為、優先順位を整理したい。札大の5点目のシーンで、ハンドリングの反則がありアドバンテージをかけ得点を認めたが、警告が必要であった。今後は気をつけたい。

INS分析

本人の評価にもあるように5点目のシーンは警告が必要であった。ただし、他に出された警告・退場に関しては適用の判断は妥当なものであった事と、その他のファウルに対しての判定基準も的確であった。状況を頭に入れながら判定や懲戒罰の判断ができている事は評価できる部分だと感じた。

警告時の怪我人への対応とファウルをした競技者への注意が必要な場面は落ち着いて優先順位を決定する事と、今回の場合は遅れたとしても、ゆっくりと時間をかけて注意をすることができれば、効果があったのかもしれない。

15:00 諸連絡・解散

10月4日

8:15 集合:東雁来公園サッカー場



10:00 試合実践③

高円宮杯 JFA U-18 サッカープリンスリーグ2020北海道 第5節

駒澤大学附属苫小牧高等学校 vs 北海道大谷室蘭高等学校

主審:牧田 副審1:小松 副審2:田口 4th:高橋 担当INS:伊藤 INS(インストラクタートレセン)

自己分析

試合前に珍しく緊張をしてしまった。ただ、試合に入ると、これまで良い手応えを得ていた動きの面で、良いポジショニングをとる事ができるようチャレンジし続けたところ、「見る事ができなかった」という場面がほとんどなく、冷静に試合を進める事ができた。副審との間でも、自分が少し争点から遅れてしまった時に、自分が一番助かるタイミングでファウルサポートをしてもらい、すごく良い協力関係を築けていたように思う。4thとの間では、交代における混乱が少々あったが、自分が慌てず、冷静な対応をができた。

INS分析

試合を通して、判定基準に関しては概ね問題ないと思うが、無謀なプレーではないかと思われるシーンや、ハンドリングとする基準、アドバンテージの必要性など、少し整理しておくべき場面があった。動き・ポジショニングの面で、良い位置から「監視」「見よう」という意識から、動き出しも早く、視野を広く展開や争点を、余裕を持って見る事ができていたように感じる。そのため、判定への自信が伺え、選手やチームからの信頼感に繋がっていたように思う。



12:45 試合実践④

高円宮杯 JFA U-18 サッカー2020 北海道ブロックリーグ札幌4部 Cリーグ 第6節

札幌白陵・あすかぜ合同 vs 北海道科学大学高等学校 C

主審:田口 副審1:高橋 副審2:小松 担当INS:今川INS

自己分析

判定について、試合を通して一貫していたと思う。21 分の警告も戦術的な意図により後方からのチャージによって攻撃を妨害していると考えた。

素早いカウンターに対するスプリントが継続してできている場面もあった。また、前半 21 分の警告を示した場面でもその前にポジション修正がうまくいった結果、視野を確保した上で警告の判断を下す事ができた。しかしながら、ペナルティーエリア付近で、選手のパスコースを空けようとして自分のポジションを後ろに下げる動作で争点から離される場面や、ボールにあたってしまう場面があった。

INS 分析

判定基準は概ね一貫していた。また 21 分の警告も、振り返り時に論理的に説明されていた事は、評価に値すると感じている。しかしながら、この警告を出した競技者の番号を記載・記憶違いしていた事、また他の審判員と番号の共有をするのを怠っていたことは避けなければいけないインシデントと考える。

時により発揮するスプリント力(16分、30分、64分)は輝かしいものであった。33分、主審にボールが当たったシーン、88分、主審にボールが当たりそうになったシーンは、いずれも自分の位置と周辺の状態を把握できていなかった事が理由の一つであると考え。今後は目的や意図を持って動いて欲しい。

15:25 諸連絡・解散

